

**【法的根拠】**  
 日本国憲法  
 教育基本法  
 学校教育法  
 学習指導要領  
 東京都教育委員会教育目標  
 国立市教育委員会教育目標

**【学校の教育目標】**  
 (1) 自ら考え正しい判断のできる人  
 (2) 強い意志をもって実行できる人  
 (3) 思いやりの心をもって助け合う人  
 (4) 心身を鍛える人

**【地域の実情】** 地元農家、ロータリークラブ、青年会議所、小学校地区育成会等との連携による多様な健全育成活動  
**【子どもの実態】** 行事・部活動への熱心な取組を継続しつつ、家庭学習のより一層の充実が必要  
**【目指す生徒像】** 本年度の重点目標「自ら考え正しい判断のできる人」「思いやりの心をもって助け合う人」  
**【保護者の願い】** 学習習慣と基礎学力の定着による学力向上、特別活動・学校行事の充実

目指す学校像 — 教育目標の実現に向けて —  
**トリプルA(安全・安心・安定)の学校**

**本校の実態**  
 授業では、毎時間「本時のねらい」を提示し、深く考える指導の工夫、確実に「振り返り」を行う指導を全教員が継続的に実施している。また、学習指導要領に沿った「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導方法及び評価の工夫のための実践を積み重ねている。また、GIGAスクール構想の具現化に向けて、各教科におけるタブレット端末の効果的な活用に取り組んでいる。  
 本年度より、国立市教育委員会研究奨励指定校の指定を受け、研究主題を「深く考える生徒の育成～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～」として、校内研究を実践している。  
 各教科等の授業の実態について、生徒アンケートから、「ねらいによって、その授業で学べることがわかる」については、全学年のすべての教科で肯定的な回答が80%を超えている。一方で、「話し合い活動によって、自分の考えが変わったり、もう一度考えてみようと思ったりする」などの「協働的な学び」の充実にかかわる内容や、「自分の興味・関心に合わせて、課題やテーマを選択したり設定したりする場面がある」などの「個別最適な学び」の充実にかかわる内容については、肯定的な回答が80%を下回る教科もある。こうした課題をふまえ、校内研究を進める中で、すべての生徒の可能性を引き出す「令和の日本型学校教育(令和3年中央教育審議会答申)」の一つの在り方を模索し、授業改善を進めている。

**学年の基本方針**

**第1学年**  
 ○自分を大切に、仲間を思いやり、認め合い、互いに高め合う集団を育成する。  
 ○学習活動、特別活動等、様々なことを積極的に取り組み、主体的に考え判断する力を育てる。

**第2学年**  
 ○中学学年としての自覚をもたせ、自ら考え判断し、主体的に行動することや責任感を育てる。  
 ○共に学ぶ姿勢で学習活動を実践させ、仲間と認め合い、学び合うなかで自分の考えを深めさせる。

**第3学年**  
 ○最高学年としての自覚と責任を意識させ、よりよい生き方を目指して成長させる。  
 ○自学自習の精神を理解させ、自ら踏み出す社会への第一歩を大切に考えさせる。

**各教科**

**国語**  
 「書く」機会、「話す」機会を多く取り入れ、表現力の向上を目指す。反復学習を通して基礎・基本の定着を図る。

**社会**  
 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力の基礎を育成する。

**数学**  
 習熟度別少人数指導や補充学習により基礎・基本の定着を図るとともに、数学的な見方・考え方を働かせ、思考力、判断力、表現力を育成する

**理科**  
 生徒の視覚に訴える多くの副教材を作成・利用し、基礎的・基本的な知識・理解を定着させるとともに科学的思考力を育てる。

**音楽**  
 基礎・基本的な技能を向上させる。曲想の理解を深め、表現力を育成する。

**美術**  
 互いの作品や伝統的美術作品に実物や映像などで触れることで、表現活動に対する関心を高め、意欲的に取り組ませる。

**技術・家庭**  
 実生活と学習内容の関連を整理させながら、評価活用の思考力を深める。日常生活の物の利用について再考し、衣食住に関する理解を深める。

**保健体育**  
 学習資料や学習カードを効果的に活用し、運動をすることに意欲をもたせ技能や体力の向上につなげる。

**外国語**  
 「話す」「聞く」練習をより多く取り入れ、特に「話す」力を伸ばす指導を工夫し、表現力の育成を目指す。

**本校における「学力向上」に向けた取組**

**【授業改善の視点】**  
 研究主題 『深く考える生徒の育成～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～』

○学習指導要領を踏まえた授業改善  
 [育成すべき資質・能力]…3つの柱  
 (1) 知識・技能の習得 (2) 思考・判断・表現力 (3) 学びに向かう力、人間性等

○「主体的・対話的で深い学び」による授業の構築  
 (1) 「本時のねらい」を明確にし「振り返り」を確実に行う。  
 (2) 授業規律を確保し、落ち着いた学習環境を整備する。  
 ○身に付けた力を生かす課題解決的な学習活動【三中スタンダード】  
 (1) 生徒が深く考えることのできる適切な課題を設定する。  
 (2) 「個」⇒「集団」⇒「個」の形式で課題に取り組ませる。  
 (3) 課題を考えるための「主発問」を工夫する。  
 (4) 「本時のねらい」に対する振り返りを行う。

○教員相互及び外部講師による授業観察の実施  
 (1) 研究授業及び教員相互の授業観察を実施し、授業改善に取り組む。  
 (2) 生徒による授業アンケートを実施、分析・改善を図る。

○学習評価の重視  
 (1) 指導と評価の一体化を図り、評価の精度を高める。  
 (2) 「評価」「評定」についての研修を行い、信頼性のある適正な評価ができるよう実践を積み重ねる。

**道徳**

**【考え議論する「特別の教科 道徳」の実践】**  
 ○ローテーション道徳を活用した複数教員による多様な授業  
 ○講師を招聘した校内研究による授業力の向上  
 ○教科書教材を利用した、考え議論する道徳の実践

- 自分自身に関すること  
 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康を図り、より高い目標を目指し、やりぬく強い意志をもち、自主的に考え、結果に責任をもち、自己の人生を切りひらく。
- 人との関わりに関すること  
 適切な言動をとり、感謝と思いやりの心をもち、互いに励ましあい、高めあい、人格・個性・立場を尊重し、多様な見方・考え方があることを理解し、他に学ぶ広い心をもつ。
- 集団や社会との関わりに関すること  
 集団生活の向上のため、決まりを守り、正義を重んじる。公共の福祉と発展に努め、日本の伝統・文化を学び、日本人としての自覚をもち、世界平和と人類の幸福に貢献する。
- 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
 自然を愛護し、感動する豊かな心をもち、自他の生命を尊重し、人間として共に生きる喜びを見いだす。

**【学力向上にむけて】**

- 指導内容・指導方法の工夫  
 ○個に応じた指導(習熟度別少人数、補充教室等)を充実させ 学習意欲の向上を図るとともに、家庭学習の定着につなげる。
- 校内研修会の工夫と充実  
 ○全教員が、相互に授業観察を行うことで、切磋琢磨し、授業力向上を図り、生徒の学力向上につなげていく。
- 家庭・地域との連携  
 (1) 三者面談、家庭訪問、教育相談を充実させる。  
 (2) 公開授業・道徳授業地区公開講座の内容を工夫、周知し、保護者の参観率を高める。  
 (3) 家庭学習強化週間を設け、家庭と協力して、予習・復習を推進する。
- 特別支援教育の推進  
 ○特別支援学級・特別支援教室への理解を深め、連携を進める
- GIGAスクール構想の充実  
 ○年間指導計画にタブレット端末の利用を盛り込み、適切な活用を進める。
- SDGs関連項目の年間指導計画への位置付け【三中プログラム】  
 ○カリキュラムマネジメントの一環として実施し、教科横断的な指導の充実を図る。

**総合的な学習の時間**

**【自立と協調】**  
 探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自らの課題を設定し、自らの学ぶ意欲を育て、自己の生き方を考える力の育成を図る。  
 各教科と関連させてSDGsを位置づけ、持続可能な社会の創り手となる生徒の育成を目指す。

**1年:「私たちのまち谷保」**  
 地域を知り、地域を拓く学習を展開する。SDGs 三中プログラム(1年生版・グループ学習)によりSDGs目標11に焦点を当て、「国立のまちづくり」を通して持続可能な社会について考える。

**2年:「地域で生きる」**  
 人間性を深める視点から地域の中で生きるための学習を展開する。今年度より職場体験学習を再開し、SDGs 三中プログラム(2年生版・グループ学習)と合わせて学習を進め、自己の生き方について考える。

**3年:「私と世界」**  
 国際社会全体や地域社会に目を向け、自分の進路を切り拓く学習を展開する。SDGs 三中プログラム(3年生版・個人研究)を実施し、世界の抱える諸問題について調べ学習や発表を行う中で、持続可能な社会の創り手としての生き方について考える。